

令和4年度
「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン
助成活動報告



2023年5月23日
NPO法人北海道遺産協議会

令和4年度「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン 助成先一覧(計3件)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	静内二十間道路の桜並木	新ひだか町	新ひだか町	静内二十間道路桜並木への桜の植樹活動	400,000
2	昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	昭和新山国際雪合戦実行委員会	昭和新山環境保全登山学習事業	200,000
3	野付半島と打瀬舟	別海町、 標津町	NPO法人野付エコネットワーク・ 野付半島ネイチャークラブ	野付半島での外来種駆除活動 (アメリカオニアザミの駆除活動)	200,000

1. 静内二十間道路桜並木への桜の植樹活動

- 実施主体：新ひだか町
- 実施団体URL：<http://www.shinhidaka-hokkaido.jp/>（新ひだか町HP）
- 助成額：400,000円

—活動内容—

- 二十間道路桜並木は、「日本の道百選」「さくら名所百選」「北海道遺産」に選ばれるなど、他に類を見ない日本屈指、また世界に誇る桜の名所であり、後世に引き継いでいかなければならない「まちの宝」。老木化や異常気象などの強風による倒木・枝折れ、さらには害虫被害も深刻であるため、現在、樹勢回復事業に取り組んでいる。
- 助成金を活用し、6本のエゾヤマザクラを植樹することができた。
- 桜並木保全ボランティア活動と併せて開催された桜の植樹式（伊藤園様主催）には、多くの町民も参加し、本取組について理解を深めた。



遺産の名称:

「静内二十間道路の桜並木」
(新ひだか町)



二十間道路は、和種馬の大型改良のために1872（明治5）年に黒田清隆が進言し、静内町（現・新ひだか町）から新冠町にまたがる地域に開設した御料牧場のための行啓道路。龍雲閣まで直線で約7km、幅20間（約36m）にわたって両側に2,000本をこえるエゾヤマザクラなどの並木が続く。雄大な日高山脈を背景とした景観は我が国で類を見ないスケールとして知られる。

2. 昭和新山環境保全登山学習事業

- 実施主体：昭和新山国際雪合戦実行委員会
- 実施団体URL：
<http://www.yukigassen.jp/>（昭和新山国際雪合戦実行委員会HP）
- 助成額：200,000円

－活動内容－

- 昭和新山の特別天然記念物である「亀岩」周辺に要注外来生物指定種である「アメリカオニアザミ」が繁茂しており、同種の駆除活動を行うほか、火山マイスターを講師に迎え、火山成長の記録と新山保護に奔走した三松正夫の功績を学ぶジオツアーを15名で実施した。アメリカオニアザミ撤去量は米袋10kg入りが7袋に及んだ。
- 雪合戦が新型コロナウイルス感染拡大により、3年連続中止となっていることについて、選手や関係者が危機感を持ち事業参加した。改めて北海道遺産の価値を再確認し、本助成を通じて環境への配慮を大会運営上でも告知していく重要性について理解を深めた。



遺産の名称:

「昭和新山国際雪合戦大会」
(壮瞥町)



子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989年に始まった大会の歴史の中で、まちの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。

3. 野付半島での外来種駆除活動(アメリカオニアザミの駆除活動)

■ 実施主体：NPO法人野付エコネットワーク・野付半島ネイチャークラブ

■ 実施団体URL：

<https://notukeeco.blogspot.com/> (NPO法人野付エコネットワークHP)

<https://nclub-notsuke.com/> (野付半島ネイチャークラブHP)

■ 助成額：200,000円

ー活動内容ー

●アメリカオニアザミ駆除活動

野付半島ネイチャーセンターが企画し毎年行っている「アメリカオニアザミ駆除活動」にて、近年、野付半島竜神崎灯台の駐車場付近でアメリカオニアザミの繁茂拡大が目立っていることから、NPO法人野付・エコネットワーク、野付半島ネイチャークラブ、野付半島ネイチャーセンターの3団体が連携して活動の主体となり、駆除活動を実施した。1回の駆除作業では予定していた範囲の駆除が完了できなかつたため、綿毛が飛散する前に2回目の駆除活動を実施した。

●環境保全啓発向けの講演会の開催

地元住民の野付半島やその周辺地域の環境保全と外来種駆除への関心と意識を高めるため、野付半島とその周辺の自然環境保全に関する講演会を開催した。



▲ 駆除活動の様子



▲ 駆除後



▲ 講演会

遺産の名称:

「野付半島と打瀬舟」

(別海町、標津町)



全長26kmの日本最大の砂嘴(さし)で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。